

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2021/09/13号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一

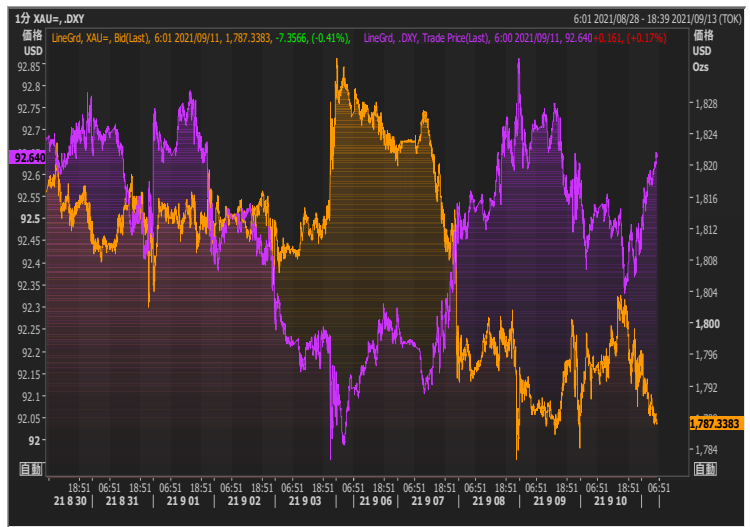


【ゴールドマーケットの現状】

1830ドルの天井感がさらに強く

SPDR Gold Shares円建価格

ゴールドとドルインデックス



ゴールドは抵抗線とみられている1830ドルを抜けることができなかったことで、マーケットは「短期的な弱気センチメント」がさらに強くなったようです。ゴールドは1800ドル前後の小動きのあと、1788ドルで一週間が終わりました。しばらくはこの1830ドルを天井としたマーケットが続きそうです。7月以降、合計4回も1830ドルにトライする場面がありましたが、すべて跳ね返されていることで、1830ドルの天井感が非常に強くなっています。具体的にはドルの強さと金利の上昇傾向がその背景にあります。週前半に米国の株価が下落した際にも、ゴールドは株と同じ「リスク資産」としてリスクオフの売りの対象となり、安全資産として買われたのはドルと米国債でした。投資家の心理状態はゴールドにとってはネガティブなものとなっているのです。そして金曜日はPPI（米生産者物価指数）が発表されました。年率で8.3%の上昇。これは2010年11月の統計開始以来の最大の伸び率。月次ベースでも0.7%、食料とエネルギーを除くコアPPIも0.6%と両方とも予想を上回り、インフレがさらに進行している数字となりました。これにより長期金利上昇、ゴールドは下落となったのです。

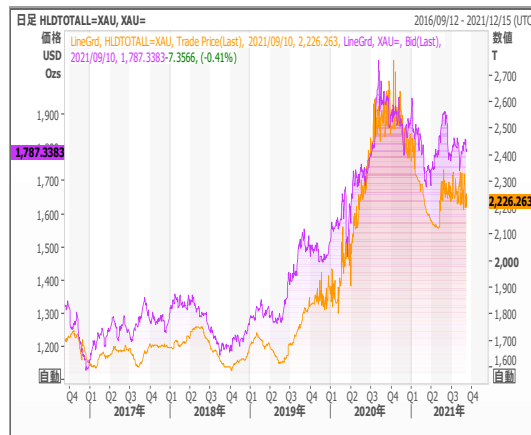
同じく金曜日のWall Street Journalでは「9月21日から始まるFOMCミーティングで、FRBは11月にも債券買い入れの縮小を決め、2022年半ばにはパンデミック対策の経済刺激策を止め、金利引上げへの道を開く。」という記事が掲載され、これもゴールドの頭を抑えることになりました。11月という年内のテーパリング開始はほぼマーケットのコンセンサスになりつつあり、現在のマーケットにはそれはもはや織り込み済みになりつつあると言えるでしょう。そのため、もしゴールドが1760ドル近辺を割り込むようなことがあれば、それは逆に長期的には買いのチャンスになるのではないのでしょうか。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【マーケット・トピック】

中央銀行とゴールド

中央銀行はゴールドマーケットでの重要なプレイヤーです。現在中央銀行が保有するゴールドの総量は34,420トン。現在地上に存在するゴールドの総量が201,296トンと見積もられており約17%を中央銀行が持っていることとなります。ちなみに世界で最も多くゴールドを保有している国はやはり米国で、8,134トン。先週書いたニクソンショック時の1971年から米国の持ち高は変わっていません。2位はドイツの3,363トン、3位イタリア2,452トン、4位フランス2,436トンと欧米諸国が続きます。そして彼らの外貨準備におけるゴールドの占める割合も6割から8割と、ゴールドへの信頼の高さが窺えます。そしてその他、特に旧社会主義国家や新興国の中央銀行は、その外貨保有での中心である米ドルからゴールドへの乗り換えが進みつつあります。特にロシア、中国、インドといった従来ドルに偏っていた国々がその外貨準備を多様化するために米ドル債からゴールドへの乗り換えが顕著な動きになっています。最新のIMFデータのよれば、7月の中央銀行のゴールド購入量は30.1トン、ウズベキスタン、ブラジル、インド、トルコ、ロシア。カザフスタンそしてモンゴルが主な買い手でした。中央銀行がゴールドを資産として保有するというのが、ゴールドが特別な存在だということの証しだと言えるでしょう。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

